



祝 齊藤院長が「医療功労賞」を 受賞されました。



2022(令和4年)1月26日の読売新聞に掲載されました。

(第3種郵便物認可)

2022年(令和4年)1月26日(水曜日)

賞

賞

医療功労賞に2氏

地域医療に長年貢献した人に贈られる第50回医療功労賞(読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、損保ジャパン、アインホールディングス協賛)の受賞者が決まった。県内からは、「一宮温泉病院」(笛吹市一宮町坪井)の院長、齊藤義昭さん(71)と、「葦崎市立病院」(葦崎市本町)の院長、東田耕輔さん(65)が栄誉に輝いた。2人の功績を紹介する。

一宮温泉病院院長
齊藤 義昭 さん 71



地域の一般診療に力

都内などで循環器内科医として働いていたが、「地域医療を支えたい」と考え、1985年から一宮温泉病院の副院長として勤務。95年に院長に就任し、地域に根ざした総合病院に発展させた。

当初、同院は末期がん患者向けのホスピスだった。だが、地域の人々から「診療もしてほしい」と要望され、内科や外科、整形外科といった一般診療ができる病院への転換を決断。医師や看護師を集めるため県内

を駆け回り、少しずつ診療科を増やしていった。救急医療や、敷地内で湧く温泉を生かしたりハビリ医療も始め、今では10診療科104床を備える、地域になくてはならない病院になった。

日々患者と向き合う中で感じたのは、外来で訪れる高齢者の急激な増加だ。「わざわざ病院に通わなくて済む環境を整えないと」。患者の自宅を訪問して看護やリハビリ、介護を行うサービスも始めた。

96年からは医師会の理事も務める。地域医療を支える医療従事者の確保は大きな課題だ。「全ての科を診られる医師を育てたい」と考え、医師が学び続けられる環境の整備に尽力。月1回、様々な専門の医師を招き、勉強会を開き続けている。「受賞は非常に光栄なこと。長年の経験を生かし、全ての人に医療を届け続けたい」と意気込む。